

【2026 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 作業療法学コース】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
臨床実習 I (見学実習)		必修	1	1	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
向山 秀 他	311	suguru.mukaiyama	木曜日 10:40~12:10		
授業の目的・概要	作業療法士を目指すために、1 年生で習得すべき基礎的知識を身につけ、社会人としての基本的な態度を見学実習で体験し認識することを目的とする。臨地実習の準備として社会人スキルの基本的な知識・態度を身につける。臨床現場を実際に体験し、学内にてその内容を報告会の場で発表する。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学习) <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	日頃から言葉遣いや生活態度に気を付けて生活し、大学生としてのマナーを身につけておくことが大切。また、高等学校までに学習している敬語法や手紙の書き方等の復習をしておくことをお勧めする。				
教科書	臨床実習 I (見学実習) の手引き				
参考書	特になし				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	医療者を目指す学生として基本的な考え方や姿勢を身につける。			HSU(1)	
②	礼儀や傾聴などの基本的な接遇を実践できる。			HSU(1)、(3)、(4)	
③	臨床で必要とされる観察記録の基礎を経験し、実習日誌を書くことができる。			HSU(3)、(4)	
④	臨床現場において、指示に従い自ら積極的に見学に参加できる。			RH(1)~(3)	
⑤	対象者との適切なコミュニケーションを図ることができる			RH(1)~(3)	
⑥					
授 業 計 画					
この科目は大きく 4 つのプログラムで構成されている					
①学内実習 (15 時間)。 オリエンテーション・マナーや接遇・コミュニケーションスキル・個人情報保護・リスク管理 (感染症予防対策)・記録の書き方、車いす操作について学習する。					
②臨床現場での見学実習 (24 時間) 病院・施設等の臨地へ学生が施設に出向き、実習(見学実習)をする。日々の実習日誌、対象者のレポートをまとめる。 実習指導者と業務をともにしながら作業療法士としての基本的態度を学び、作業療法士の日常業務と役割を理解することを目的とする。					
③実習報告会 (2 時間) 見学したこと、体験したことを報告する。					
④客観的臨床能力試験 (OSCE) (4 時間) 態度、コミュニケーションなど社会スキルの習熟度を評価する。					

学習課題・学習時間
<p>①実習で修得するスキル 臨床実習 I (見学実習) では社会的スキルと臨床的スキルの 2 つの修得を行う。</p> <p>社会的スキル：ルールやマナーなど社会人としての基盤である。対象者やスタッフとのコミュニケーションなど対人能力も含む。「主体的に行動する」「TPO に応じた言葉遣いや配慮をする」などは態度にあたる。臨床実習 I (見学実習) では臨床現場に赴き、対象者や指導者等との適切な態度やコミュニケーションを実践的に学ぶ。</p> <p>臨床的スキル：運動スキルと認知スキルに分けられる。運動スキルの修得はスキル修得者 (臨床実習では実習指導者) を観察し、模倣・試行を繰り返して修得されるもので、臨床実習ではこの過程をチェックリストで確認する。認知スキルとは「臨床の知」と言われるような、知識を臨床で応用し、状況に応じて行動・判断することで、経験を通じてしか学ぶことができない。実習指導者の解説を受けながら伸ばしていく必要がある。臨床実習 I (見学実習) ではリスク管理の手法や記録の書き方など医療専門職としての基礎的なスキルを実践的に学ぶ。</p> <p style="text-align: right;">必要時間 (単位：時間)：1 単位：45 時間</p>

【2026 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 作業療法学コース】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		40	0	30	0	30	100
総合 力 指 標	知識・技術力	10	0	10	0	5	25
	思考・推論・創造する力	0	0	0	0	5	5
	協調性・リーダーシップ	0	0	5	0	0	5
	発表・表現伝達する力	10	0	10	0	0	20
	コミュニケーション力	10	0	5	0	0	15
	取組みの姿勢・意欲	10	0	0	0	10	20
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	10	10
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	OSCE（客観的臨床能力試験）でのコミュニケーションスキルをチェックする。(40%) 「模擬患者への挨拶はできたか」「自己紹介できたか」「模擬患者との会話ができたか」「声の大きさは適切か」「姿勢は適切か」などについて評価する。			ループリックを用いて自己評価および教員評価を実施する。	
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤	✓					
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①	✓	学内における報告会（態度や報告内容）、対象者のレジюме内容により評価する。(30%)			ループリックを用いて自己評価および教員評価を実施する。	
	②						
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	見学実習の評定（態度や行動）によって評価する。(30%)			ループリックを用いて自己評価および教員評価を実施する。	
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	志茂 聡、小沢 健一、榎田 哲弥、小川 麻里子、渡辺 俊太郎、向山 秀						
教員の実務経験	各教員は作業療法士として様々な臨床経験を有する。						
実践的授業の内容	臨床実習のため、実体験を通して、セラピストとして修得すべきスキルと態度、倫理観を育成していく。						
そ の 他	臨地実習において教員、実習施設が示す感染対策を遵守すること。 問題がある場合は登校、実習参加を認めない。						